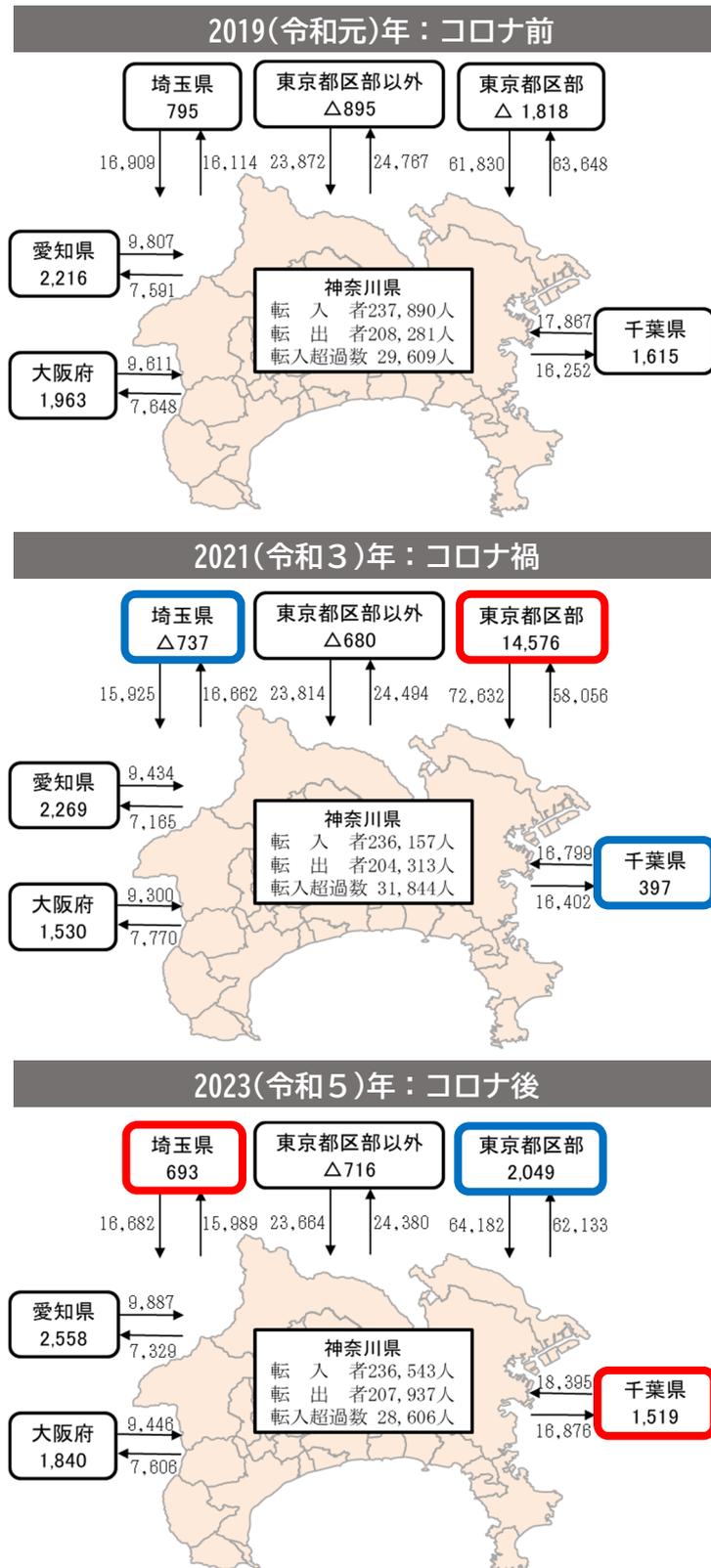


神奈川県内の人口移動分析

新型コロナウイルスの感染拡大前、コロナ禍、コロナ後の3時点で人口移動がどのように変化したかを分析する。

県内の地域別人口移動分析は、川崎・横浜地域、三浦半島地域、湘南地域、県央地域、県西地域の5つに分類し、年齢別の状況も分析する。データは、各年の住民基本台帳人口移動報告を基に作成。

【県全体の人口移動の変化】 枠内は転入超過数を示す



県全体で見ると、転入超過数は、コロナ前からコロナ禍で約2千人増加したが、コロナ禍からコロナ後で約3千人減少した。

<東京都との関係>

東京都区部を除く東京都とは、転出超過が一定で続いたが、東京都区部においては、コロナ前からコロナ禍で、転出超過から転入超過へ大幅に変化し、コロナ禍からコロナ後では、縮小したものの転入超過が続いている。

<埼玉県との関係>

埼玉県とは、コロナ前からコロナ禍で、転入超過から転出超過へと大幅に変化し、コロナ禍からコロナ後で、再度転入超過へと変化した。

<千葉県との関係>

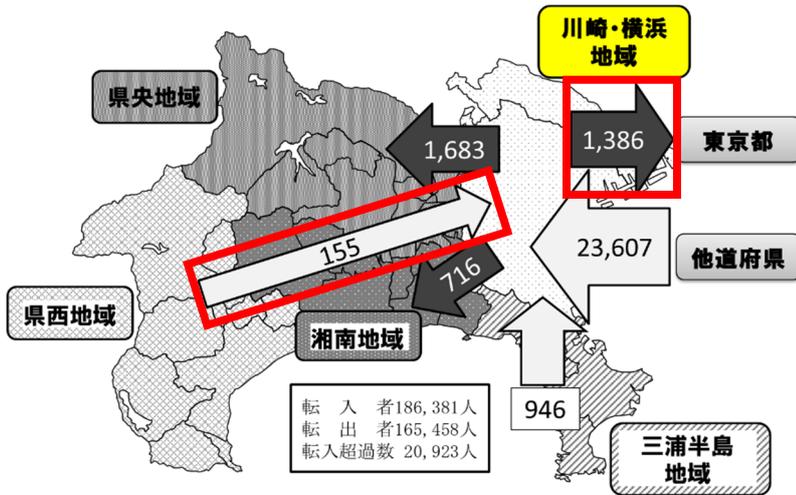
千葉県とは、転入超過が続いているが、コロナ禍で縮小し、コロナ後はコロナ前と同程度になった。

<愛知県・大阪府との関係>

愛知県、大阪府とは、転入超過が一定で続いており、大きな変化はない。

地域別人口移動の状況【川崎・横浜地域】

2019(令和元年)年：コロナ前



県央地域及び湘南地域への
転出超過が続く

<三浦半島地域との関係>
大きな変化は見られない。

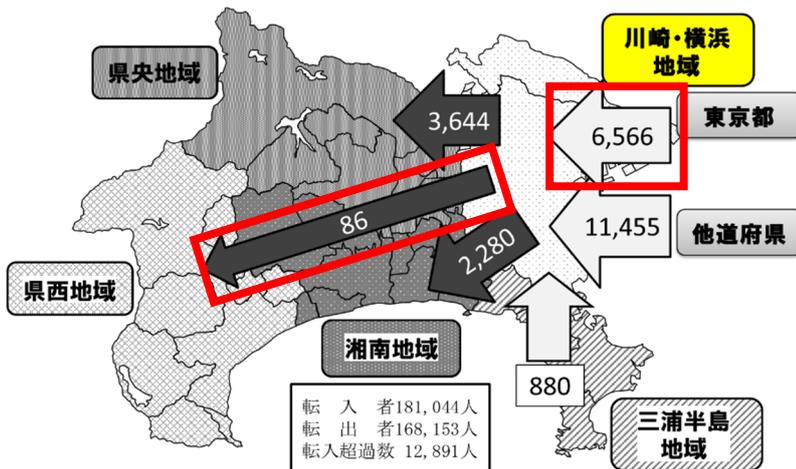
<県央地域との関係>
転出超過が続いており、コロナ禍で、その数が大きく増加し、コロナ後で、若干減少したもののコロナ前よりも多い。

<湘南地域との関係>
転出超過が続いており、コロナ禍で大きく増加し、コロナ後も高い水準となっている。

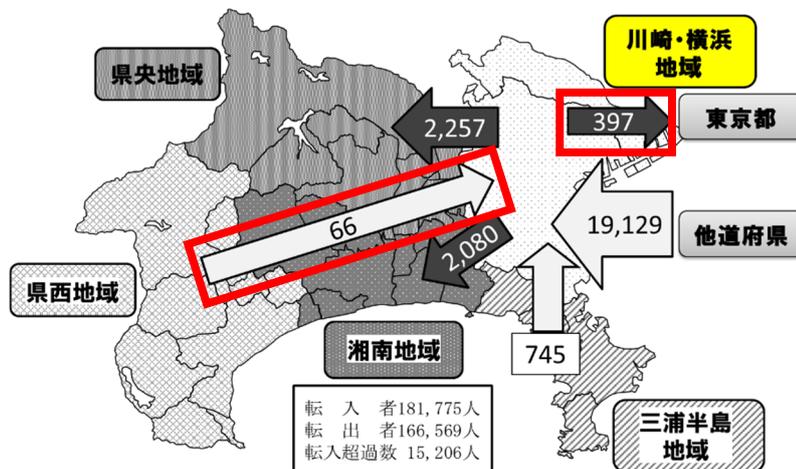
<県西地域との関係>
コロナ禍で、転入超過から転出超過へ転じ、コロナ後に再び転入超過へと転じた。

<東京都との関係>
コロナ禍で転出超過から転入超過へと転じ、大幅に転入超過が増えたものの、コロナ後で再び転出超過へと転じたが、コロナ前に比べ、その数は少ない。

2021(令和3)年：コロナ禍



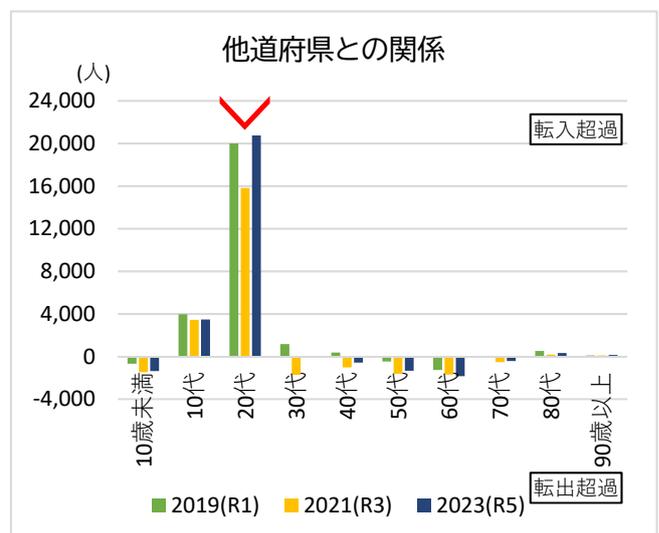
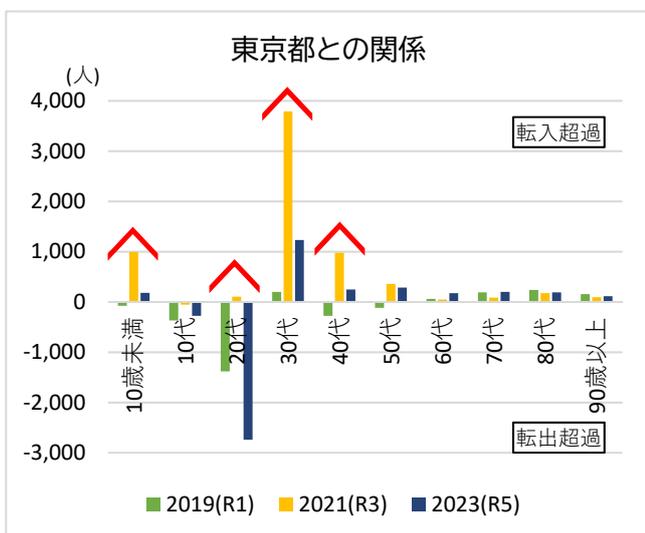
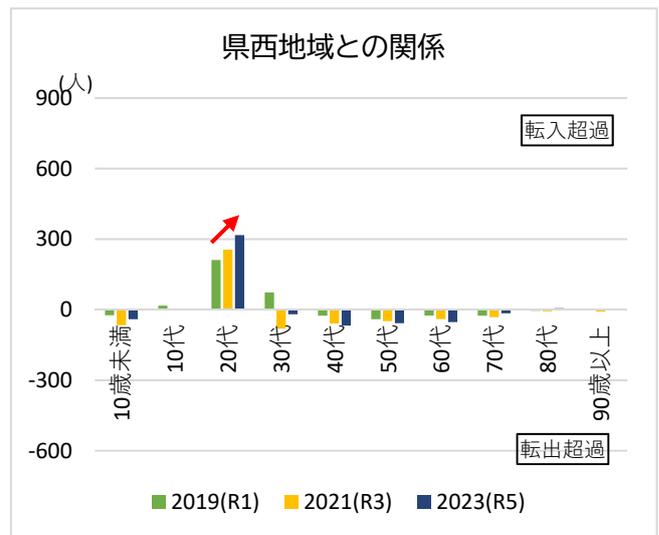
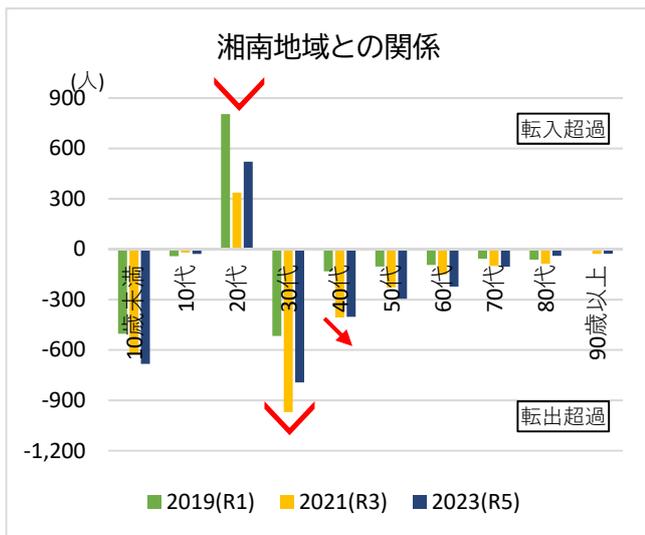
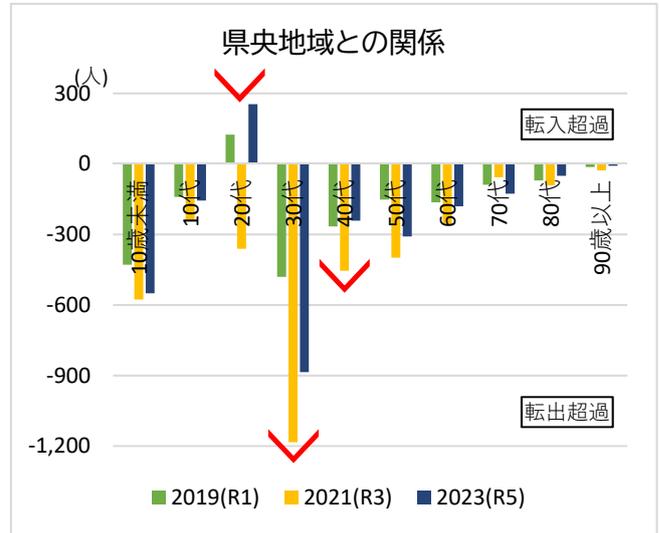
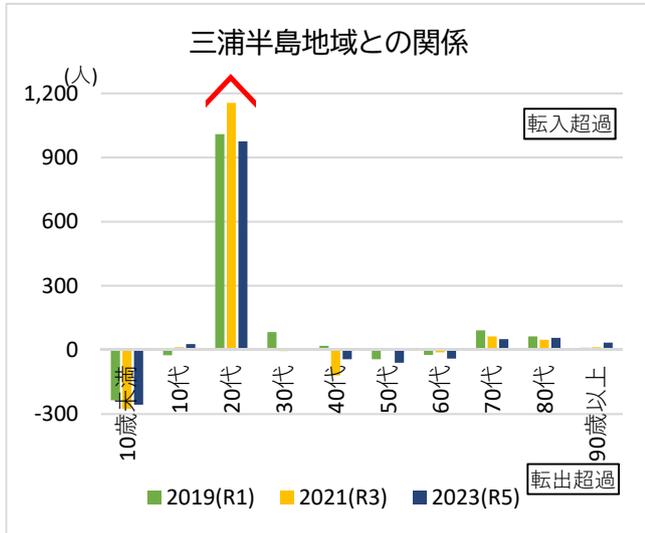
2023(令和5)年：コロナ後



<他道府県との関係>
転入超過が続いており、コロナ禍で、その数は減少したが、コロナ後に再び増加し、コロナ前に近づきつつある。

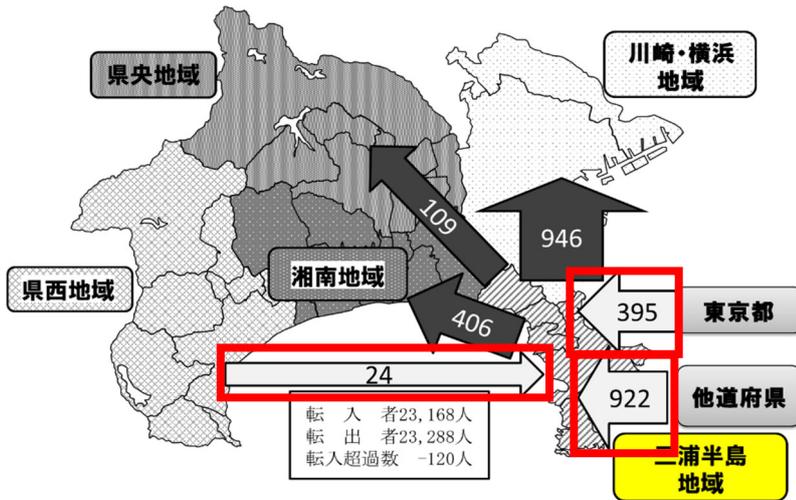
年齢別の移動状況【川崎・横浜地域】

- 東京都を除き、20代は各地域から転入超過となっているが、県央地域においては、コロナ禍で転出超過となった。
- 20代の転入超過において、三浦半島地域及び東京都はコロナ禍で増加し、県央地域、湘南地域及び他道府県は減少したものの、コロナ後はコロナ前の動きに近づいている。
- 県央地域及び湘南地域の30代は、転出超過が続いており、コロナ禍で転出が増加した。



地域別人口移動の状況【三浦半島地域】

2019(令和元)年：コロナ前



東京都からの転入超過がコロナ禍で増加した

<川崎・横浜地域との関係>

大きな変化はないが、転出超過に若干減少の傾向が見られる。

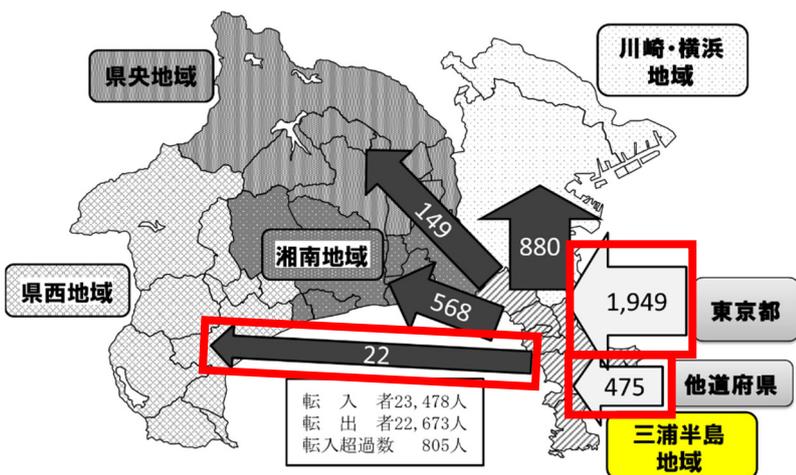
<県央地域との関係>

大きな変化はないが、転出超過に若干増加の傾向が見られる。

<湘南地域との関係>

大きな変化は見られない。

2021(令和3)年：コロナ禍



<県西地域との関係>

コロナ禍で転入超過から転出超過へと転じ、コロナ後も転出超過が増加している。

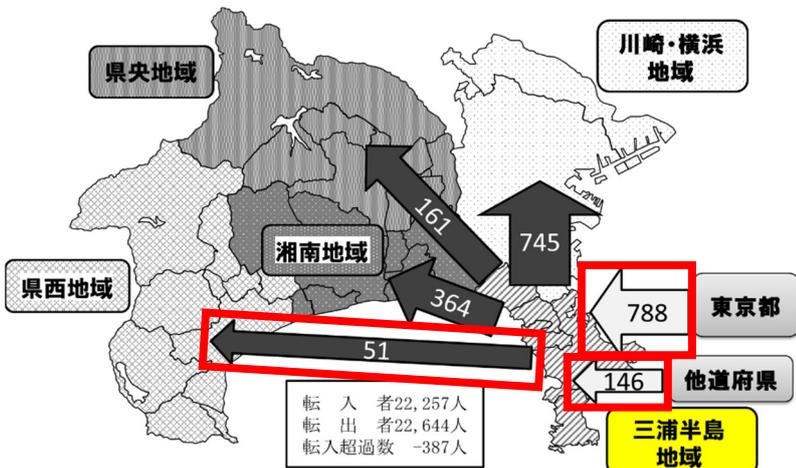
<東京都との関係>

転入超過が続いており、コロナ禍でその数が大きく増加したが、コロナ後はコロナ前より多いものの減少した。

<他道府県との関係>

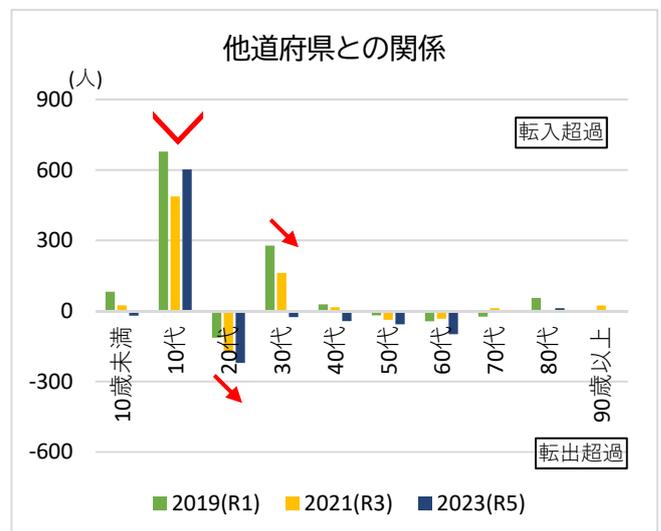
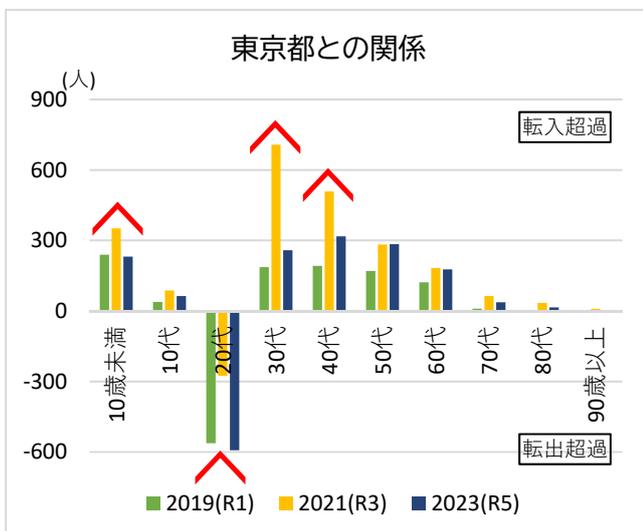
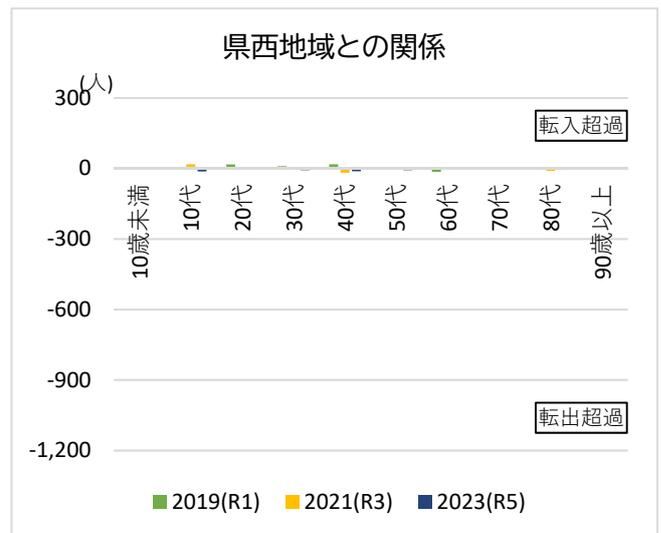
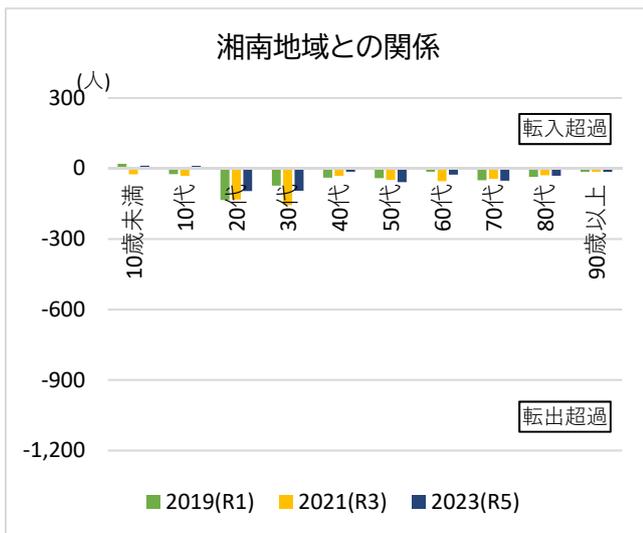
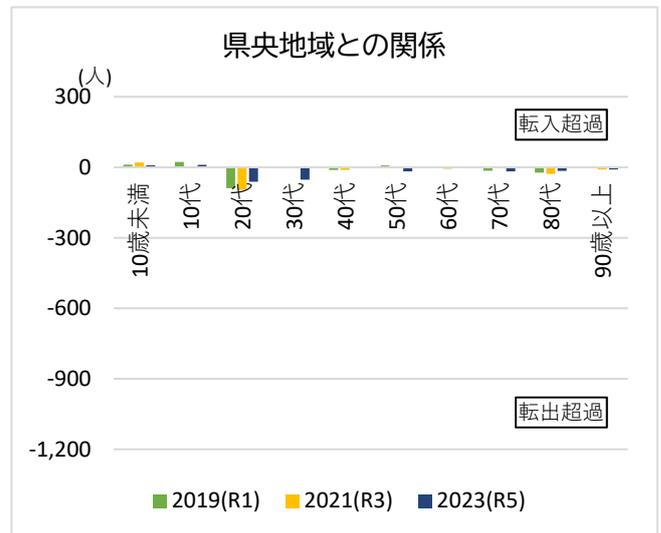
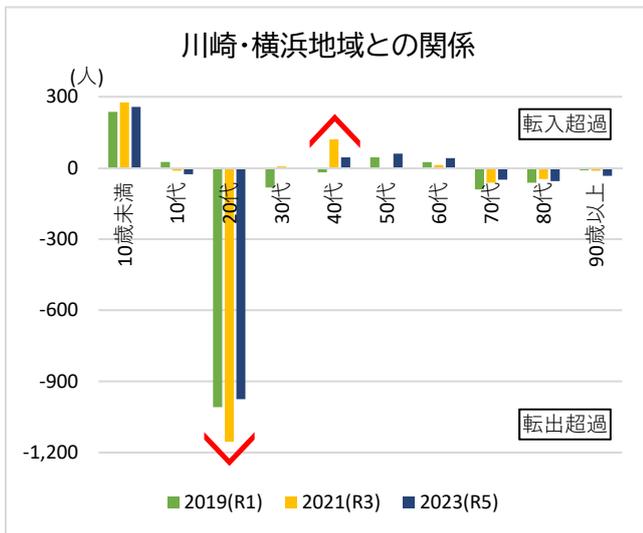
転入超過が続いているものの、コロナを経て、その数は減少の傾向が見られる。

2023(令和5)年：コロナ後



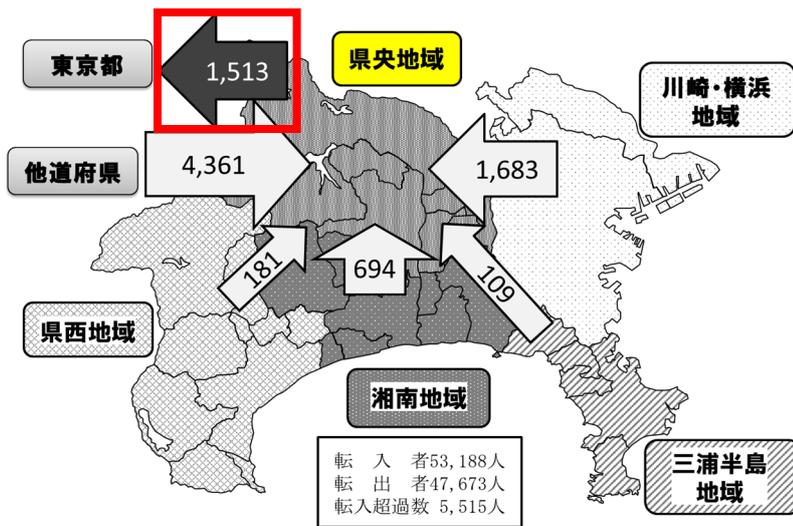
年齢別の移動状況【三浦半島地域】

- 川崎・横浜地域への20代の転出超過が多く、コロナ禍で増加したが、コロナ後はコロナ前と同程度になっている。
- 県央地域、湘南地域及び県西地域の移動は少ない。
- 東京都との関係において、20代のみ転出超過となっており、それ以外の年代は転入超過となっている。また、コロナ禍で転入が多くなっているが、コロナ後はコロナ前と同程度になっている。



地域別人口移動の状況【県央地域】

2019(令和元年)年：コロナ前



コロナを経て東京都への転出超過が転入超過へと転じた

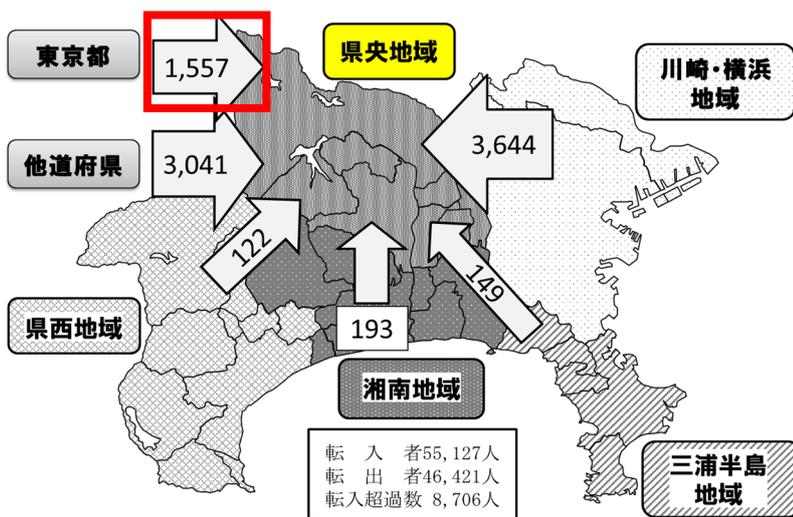
<川崎・横浜地域との関係>

転入超過が続いており、コロナ禍でその数が大きく増加したが、コロナ後はコロナ前より多いものの減少した。

<三浦半島地域との関係>

転入超過が続いており、コロナを経て、その数は増加の傾向が見られる。

2021(令和3)年：コロナ禍



<湘南地域との関係>

転入超過が続いているものの、コロナを経て、その数は減少の傾向が見られる。

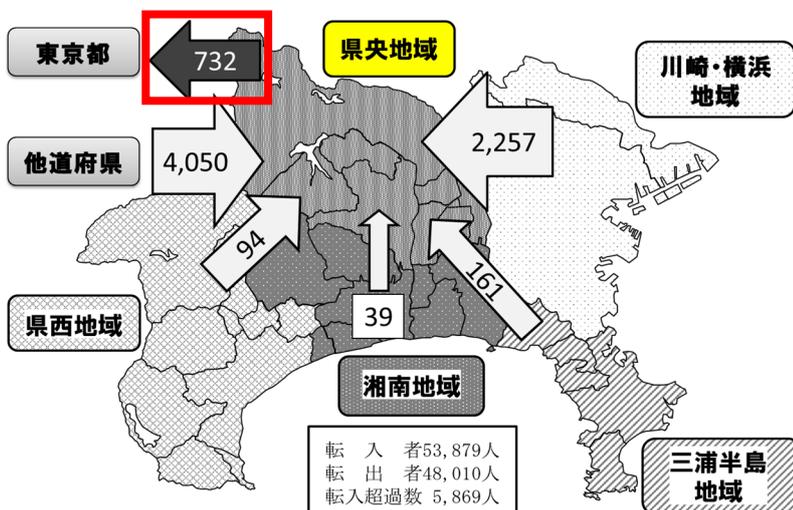
<県西地域との関係>

転入超過が続いているものの、コロナを経て、その数は減少の傾向が見られる。

<東京都との関係>

コロナ禍で転出超過から転入超過へと転じ、大幅に転入超過が増えたものの、コロナ後で再び転出超過へと転じたが、コロナ前に比べ、その数は少ない。

2023(令和5)年：コロナ後

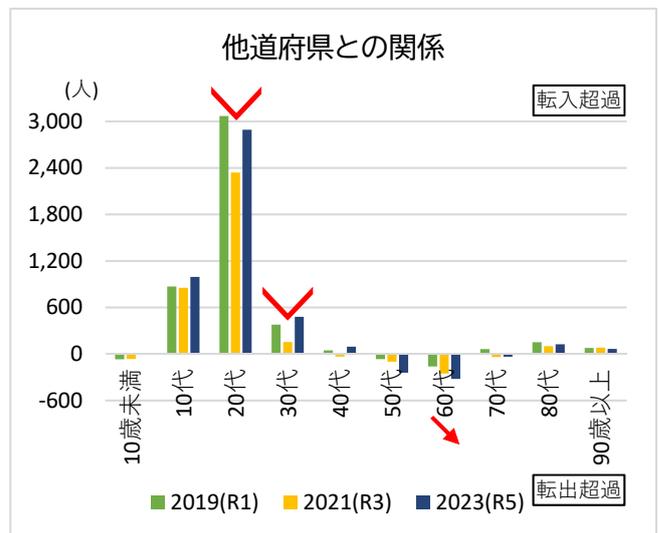
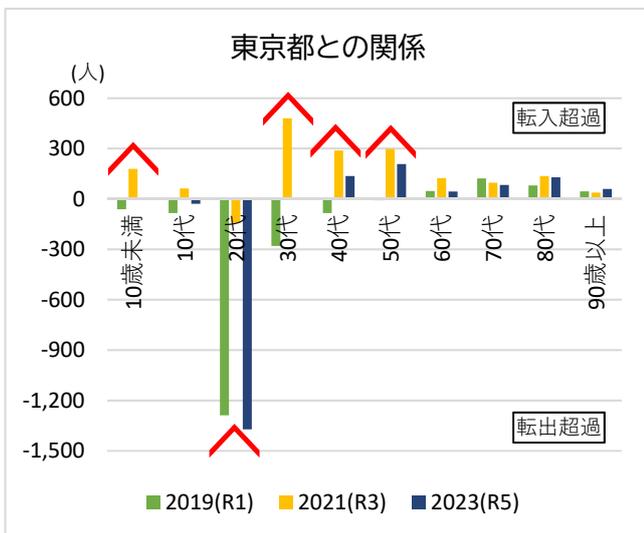
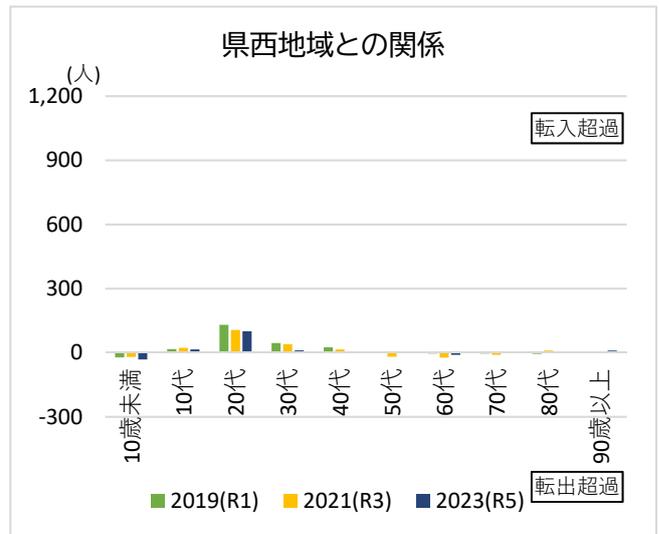
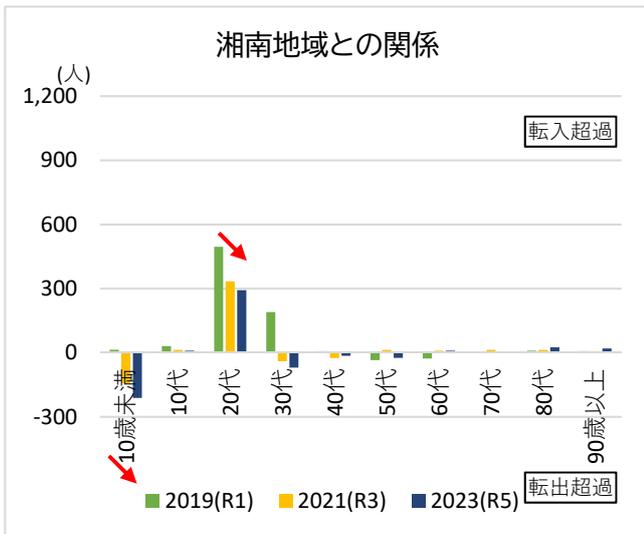
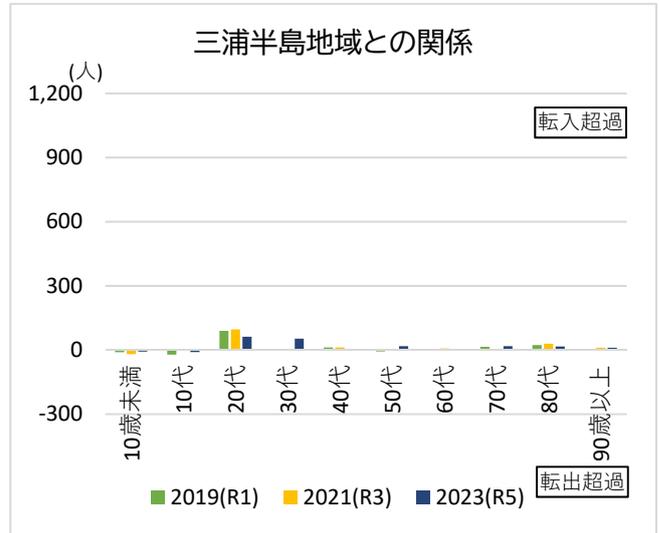
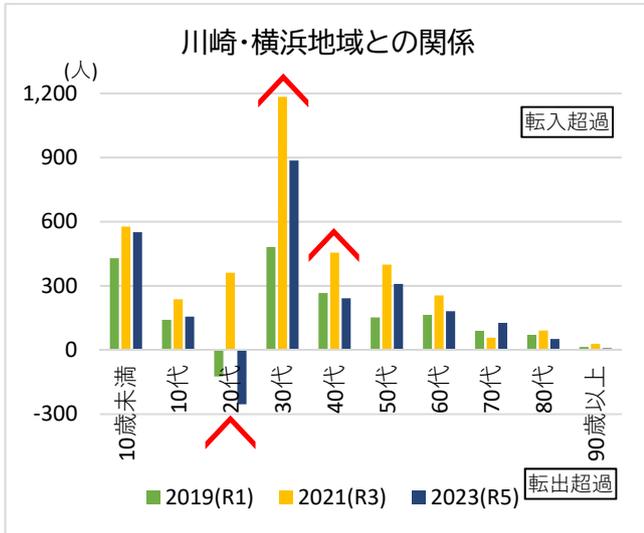


<他道府県との関係>

コロナ前後で大きな変化は見られないが、転入超過のボリュームが多い。

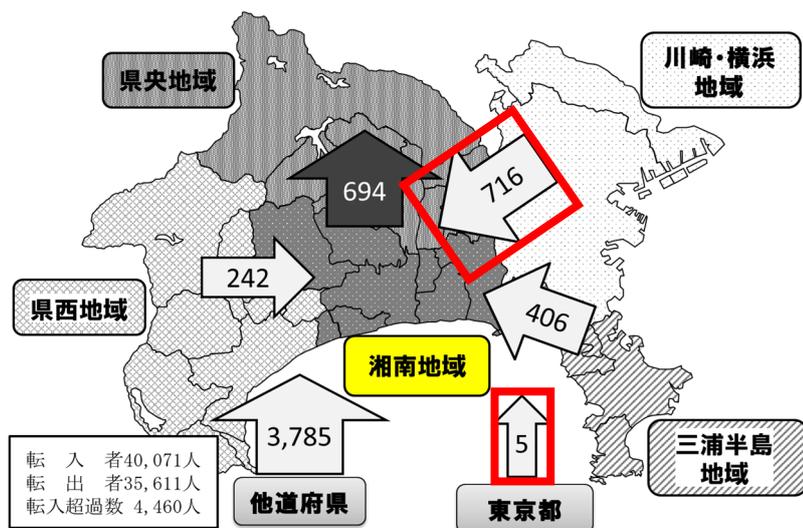
年齢別の移動状況【県央地域】

- 川崎・横浜地域からの30代の転入超過が多く、唯一20代はコロナ禍のみ転入超過となったが、コロナ前後は転出超過となっている。
- 東京都からコロナ禍の30代～50代の転入超過が多く、20代は転出超過が多いもののコロナ禍のみその数が減っている。
- 他道府県からの20代の転入超過が多く、コロナ禍でその数が減ったものの、コロナ後はコロナ前と同程度になっている。



地域別人口移動の状況【湘南地域】

2019(令和元)年：コロナ前



コロナを経て、川崎・横浜地域及び東京都からの転入超過が増加した。

<川崎・横浜地域との関係>

転入超過が続いており、コロナ禍でその数が大きく増加しコロナ後も高い水準となっている。

<三浦半島地域との関係>

大きな変化は見られない。

<県央地域との関係>

唯一転出超過が続いているものの、コロナを経て、その数は減少の傾向が見られる。

<県西地域との関係>

大きな変化は見られない。

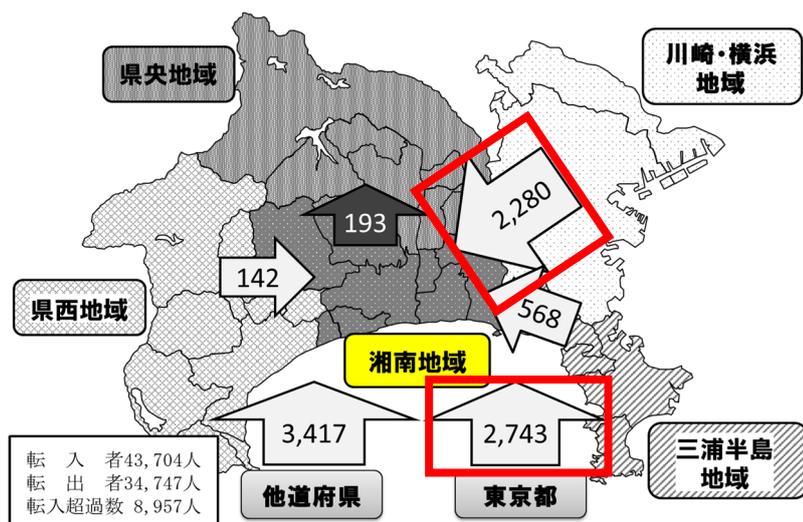
<東京都との関係>

転入超過が続いており、コロナ禍でその数が大きく増加したが、コロナ後はコロナ前より多いものの減少した。

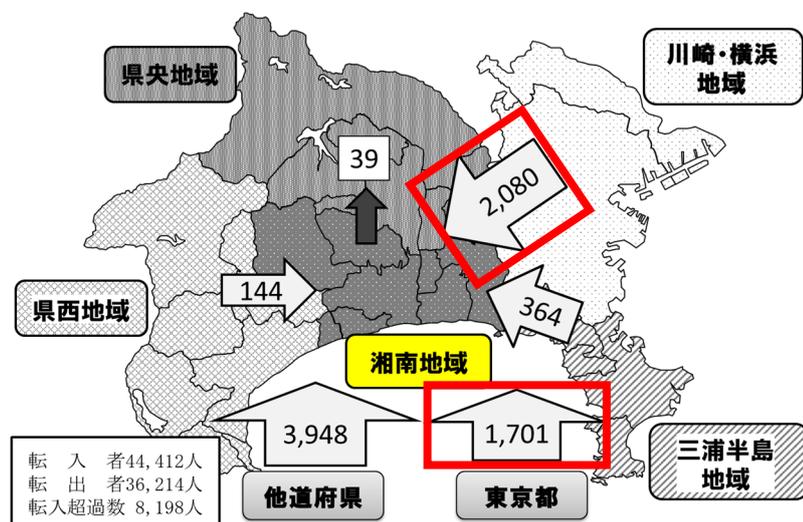
<他道府県との関係>

コロナ前後で大きな変化は見られないが、転入超過のボリュームが多い。

2021(令和3)年：コロナ禍

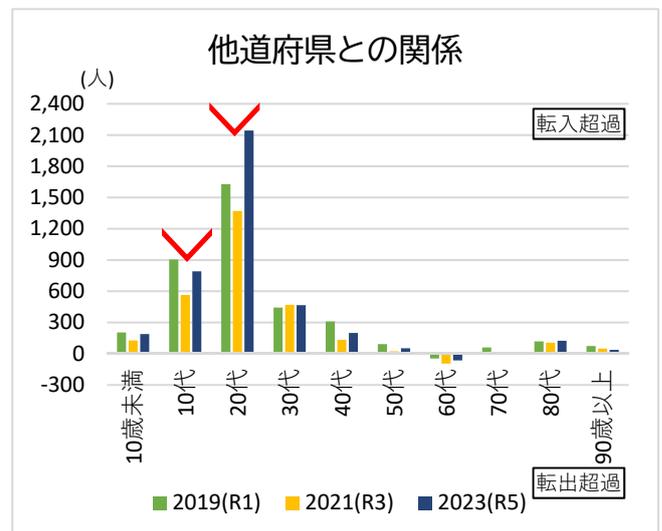
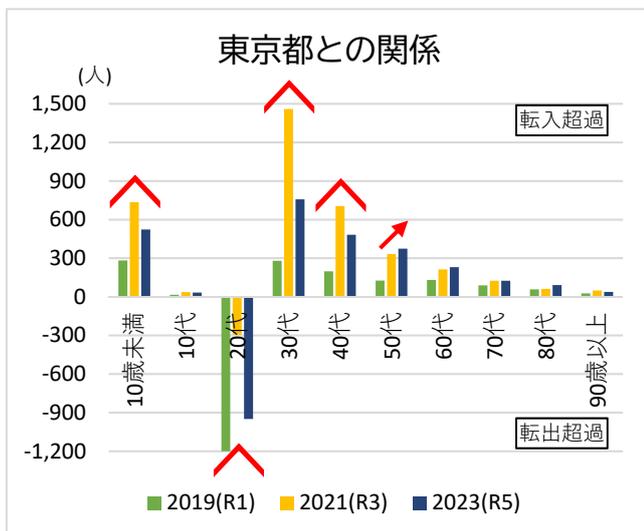
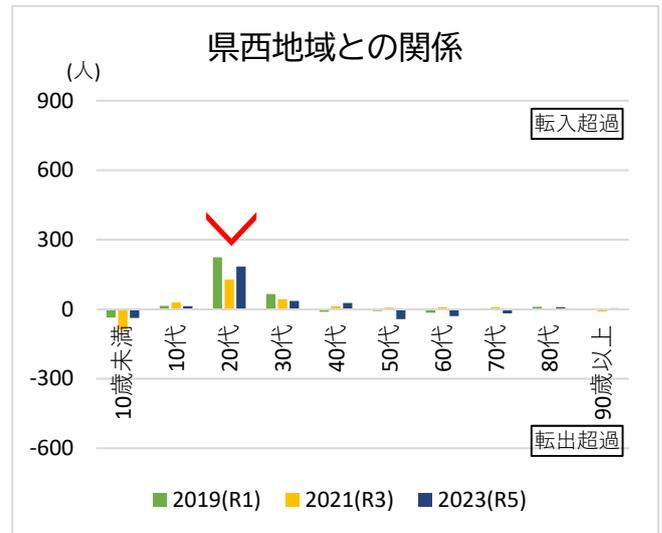
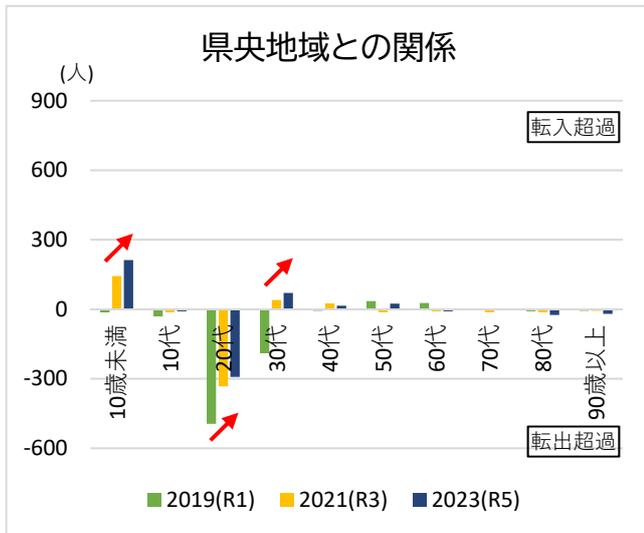
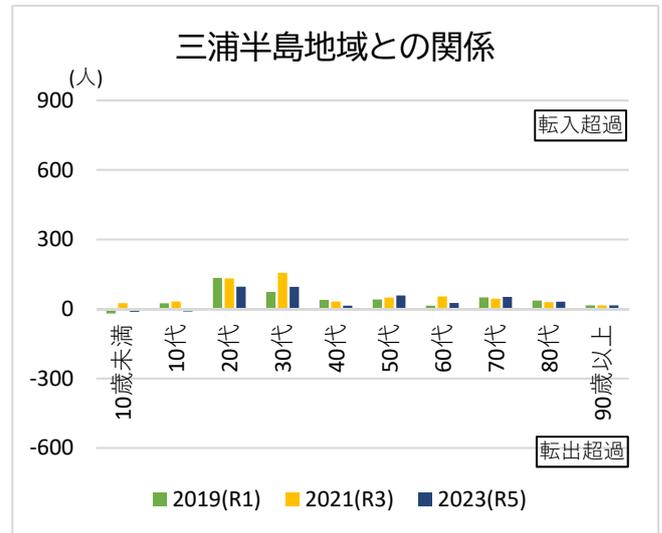
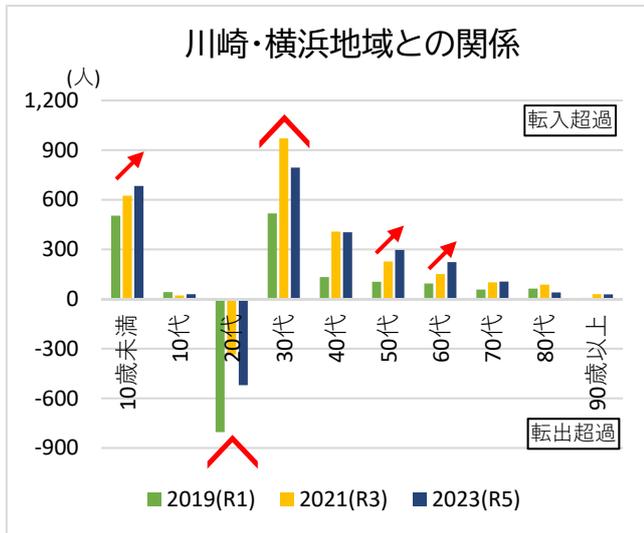


2023(令和5)年：コロナ後



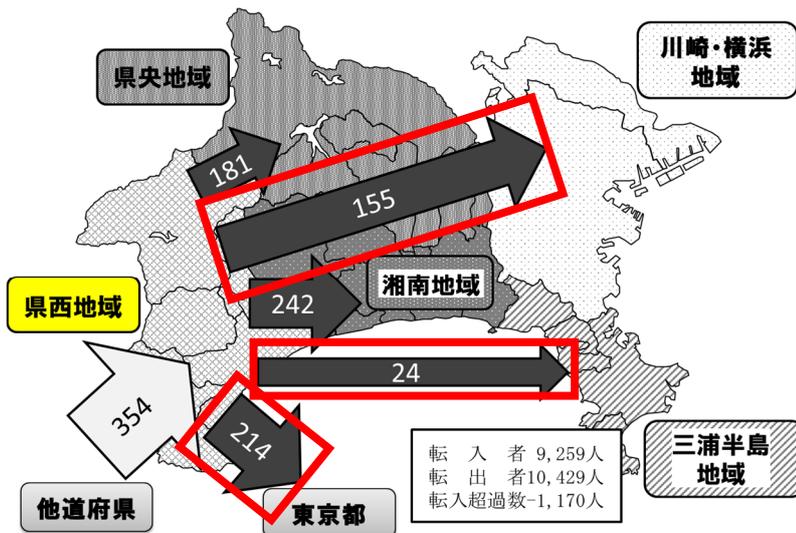
年齢別の移動状況【湘南地域】

- 川崎・横浜地域からの10歳未満及び30代の転入超過が多く、唯一20代のみ転出超過となっている。
- 東京都からの10歳未満と30代～50代の転入超過が多く、20代は転出超過が多いもののコロナ禍のみその数が減っている。
- 他道府県からの10代、20代の転入超過が多く、コロナ禍でその数が減ったものの、コロナ後はコロナ前と同程度になっている。



地域別人口移動の状況【県西地域】

2019(令和元年)年：コロナ前



コロナ禍で転入超過となった地域が増えた

<川崎・横浜地域との関係>

コロナ禍で、転出超過から転入超過へ転じ、コロナ後に再び転出超過へと転じた。

<三浦半島地域との関係>

コロナ禍で転出超過から転入超過へと転じ、コロナ後も転入超過が増加している。

<県央地域との関係>

転出超過が続いているものの、コロナを経て、その数は減少の傾向が見られる。

<湘南地域との関係>

大きな変化は見られない。

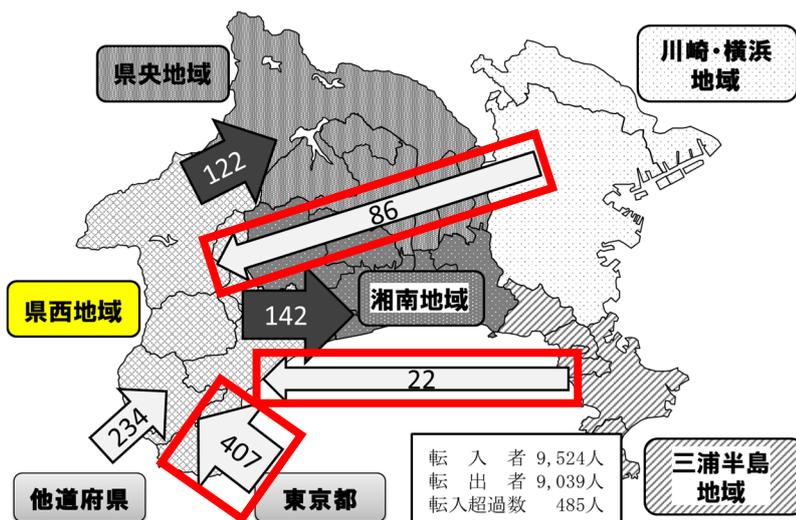
<東京都との関係>

コロナ禍で転出超過から転入超過へ転じ、コロナ後に再び転出超過へと転じた。

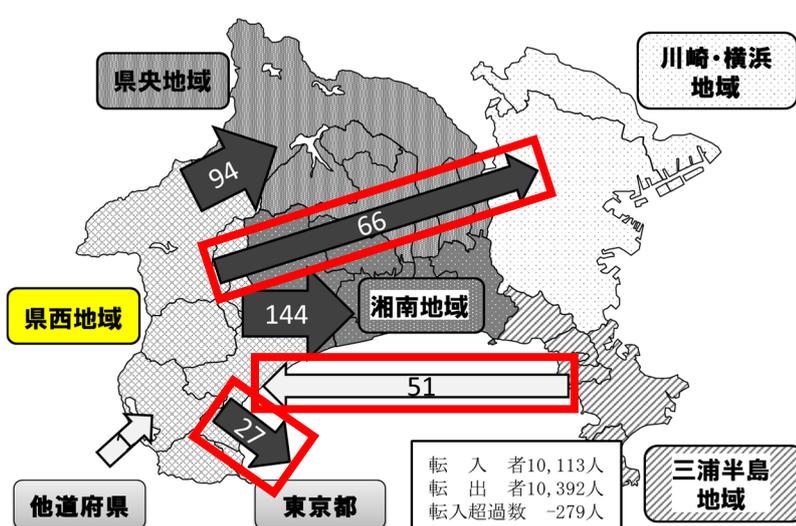
<他道府県との関係>

転入超過が続いているものの、コロナを経て、その数は減少の傾向が見られる。

2021(令和3)年：コロナ禍

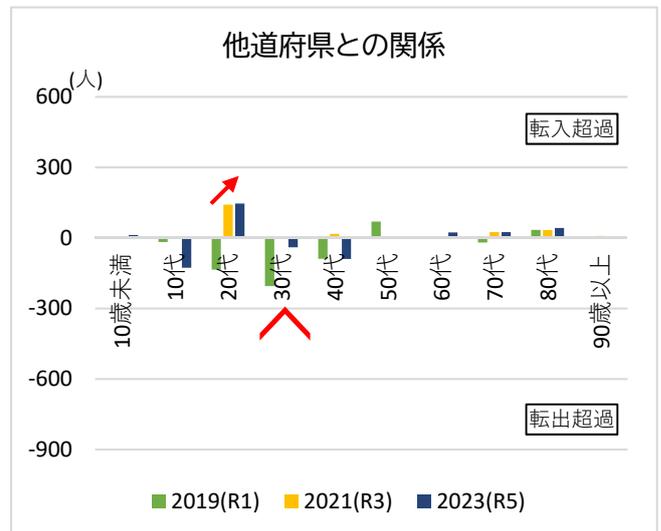
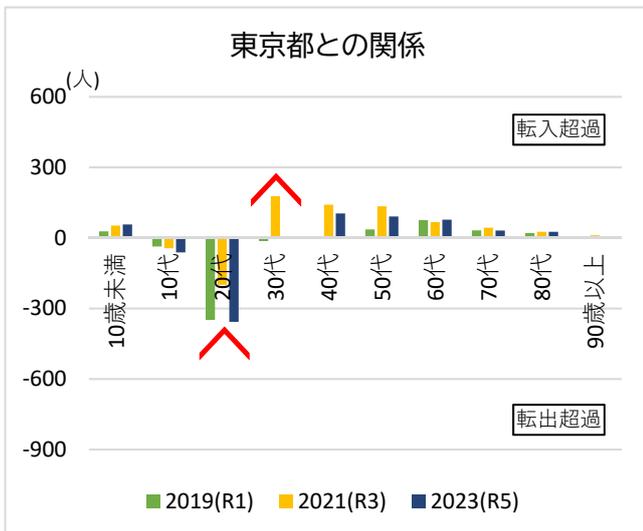
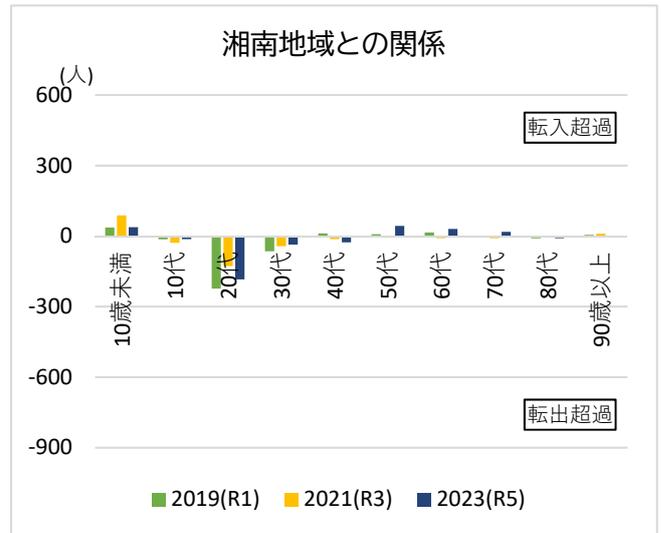
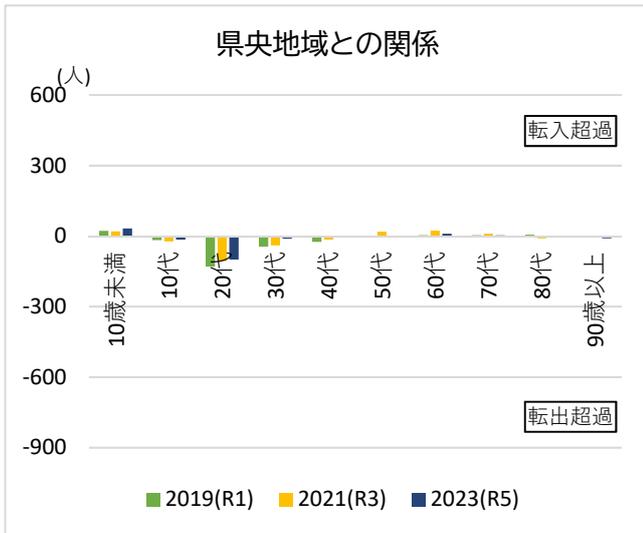
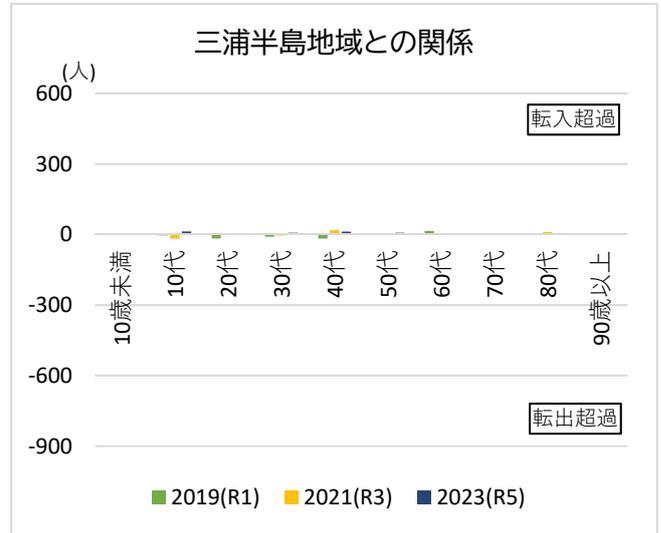
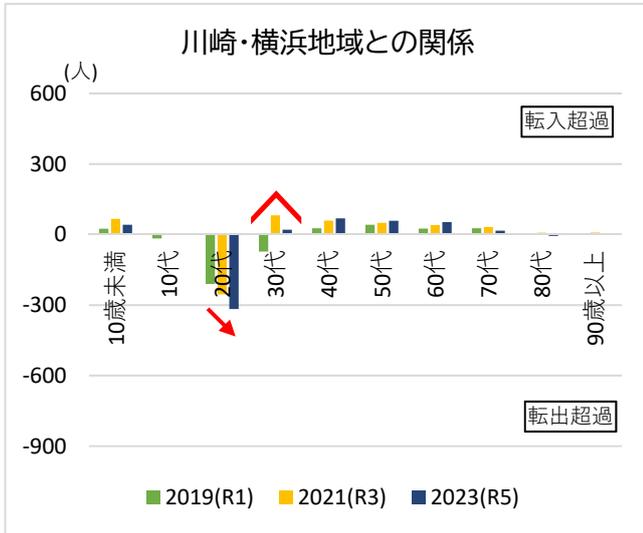


2023(令和5)年：コロナ後

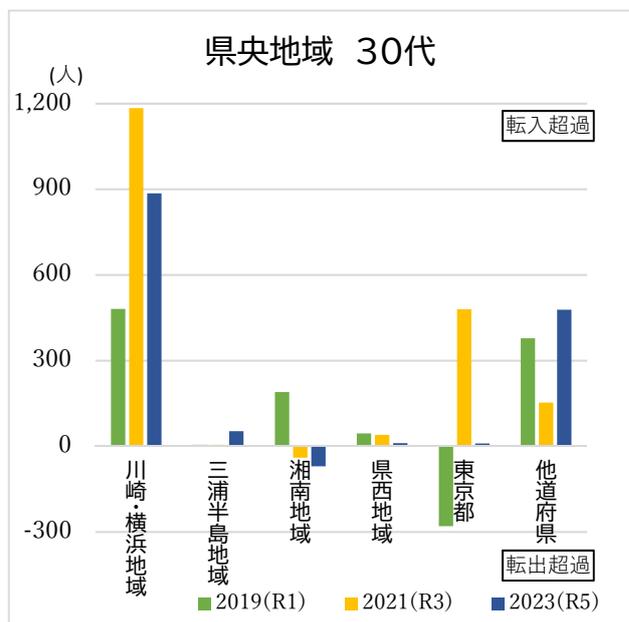
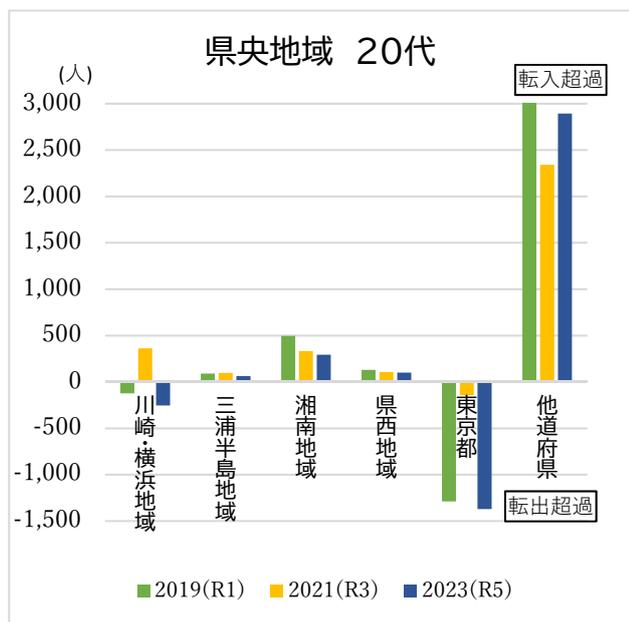
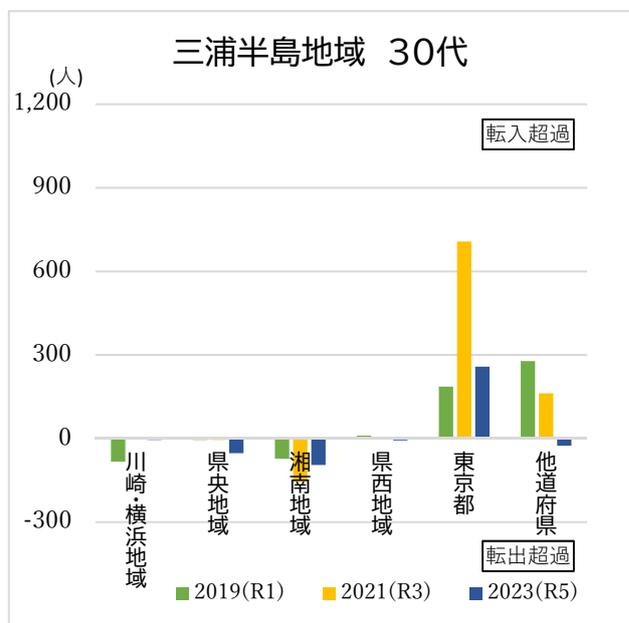
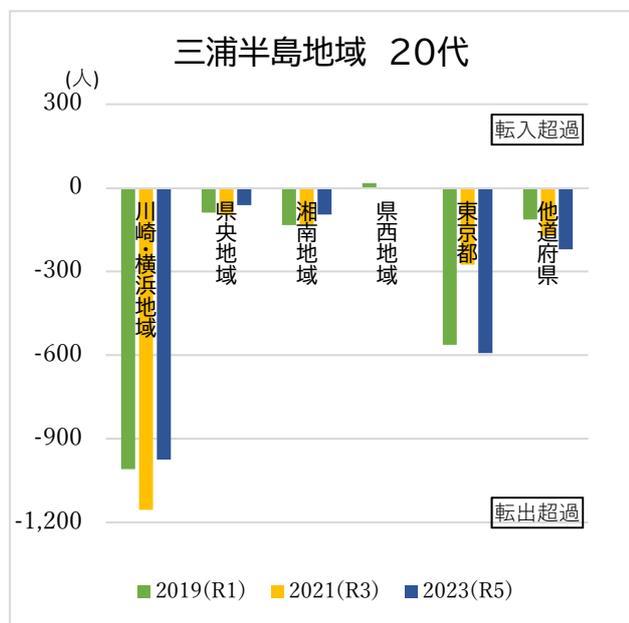
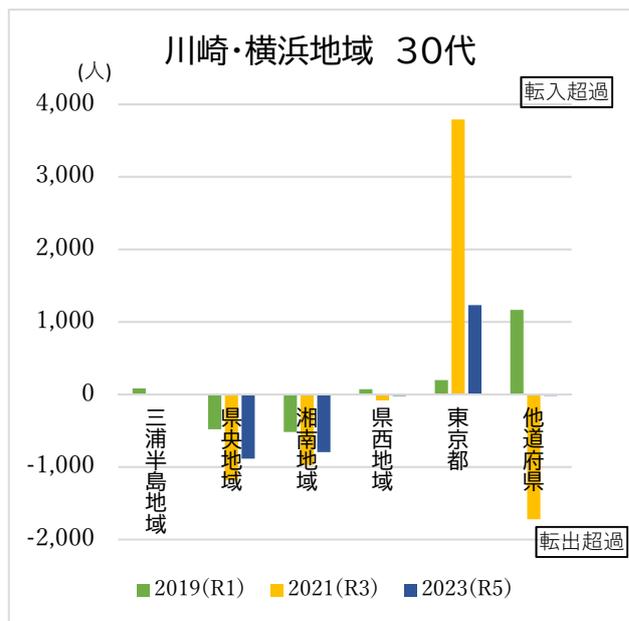
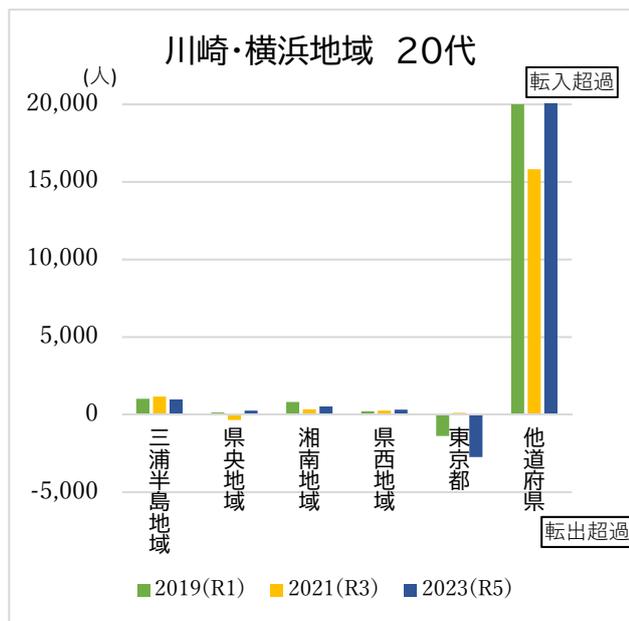


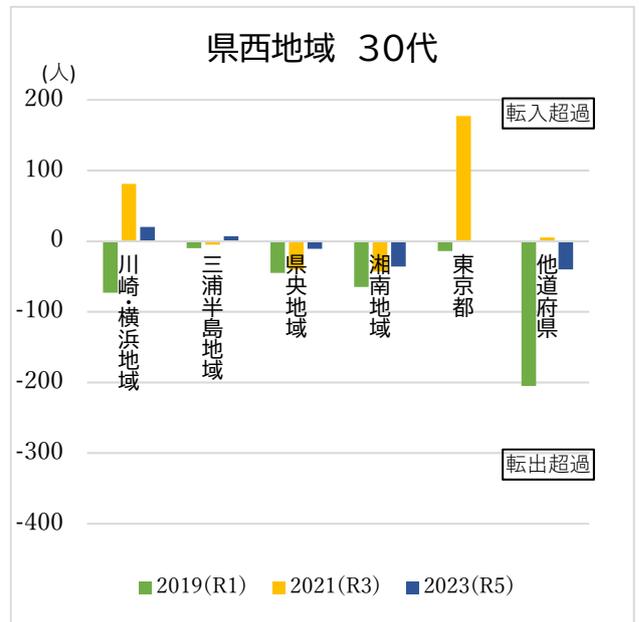
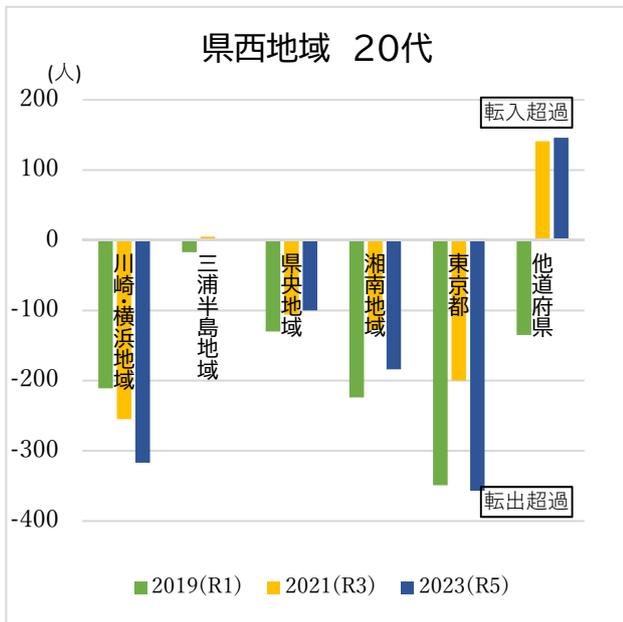
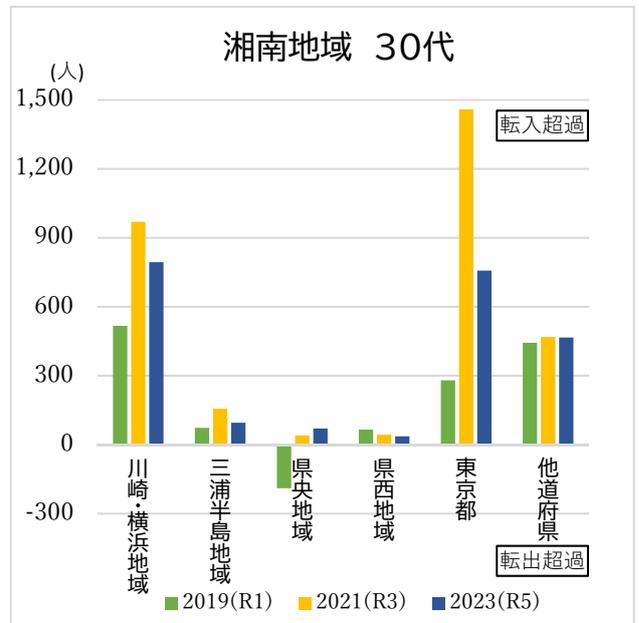
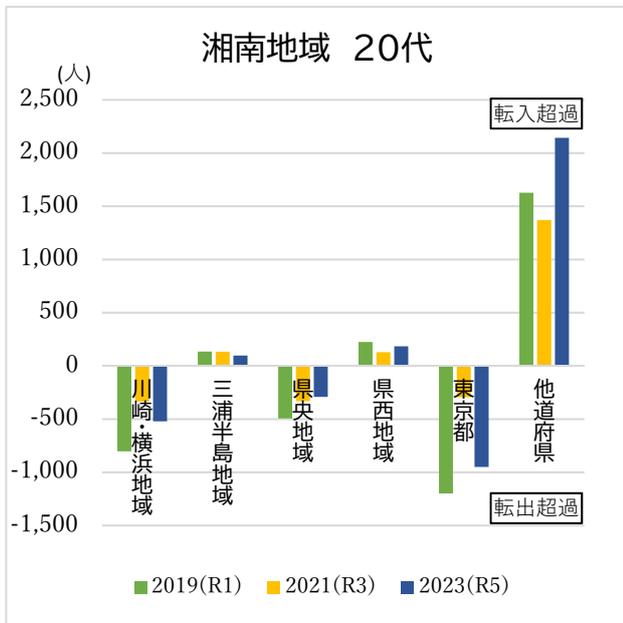
年齢別の移動状況【県西地域】

- 20代では各地域で転出超過が多く、川崎・横浜地域においては、コロナを経て転出超過の増加傾向が見られる。
- 他の地域に比べ、川崎・横浜地域の40代～70代で一定数の転入超過が続いている。
- 東京都からの転入超過では、30代～50代のコロナ禍で増加している。
- 他道府県の20代では、転出超過がコロナ化で転入超過へ転じ、コロナ後も微増している。また、30代では、コロナ前後は転出超過であったものの、コロナ禍のみ転入超過となっている。

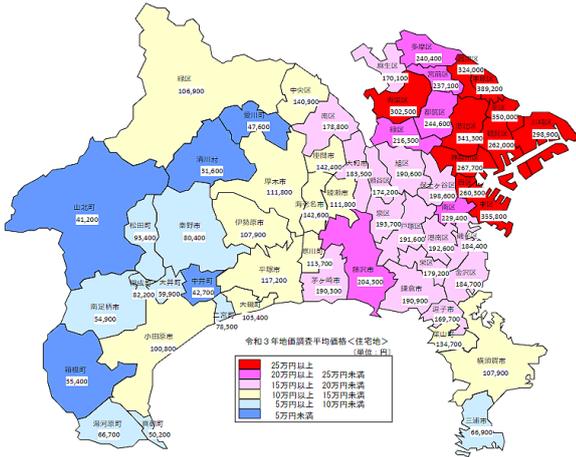


各地域の20代・30代の移動状況

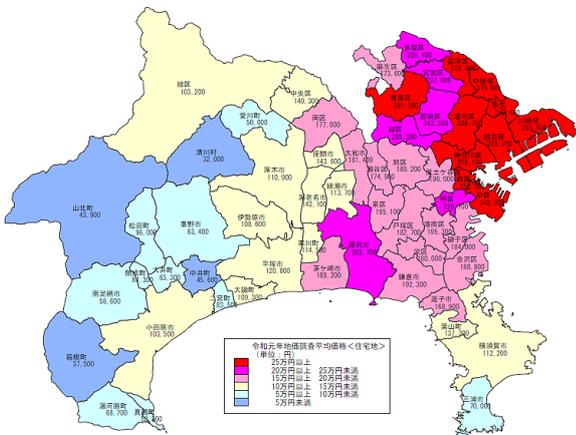




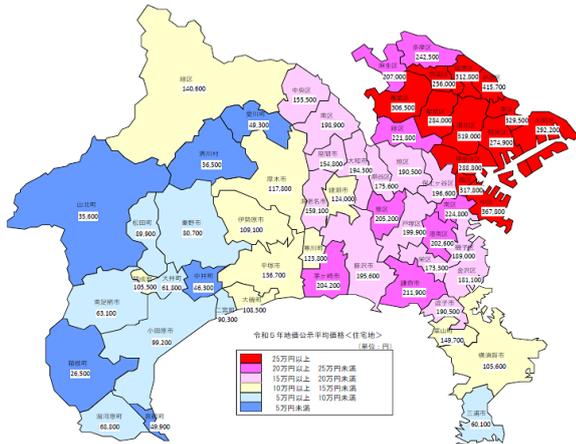
(参考)地価公示(市町村別平均価格地図(住宅地)) ※県政策局作成資料より抜粋



令和元年度地価公示(市町村別平均価格地図(住宅地))



令和3年度地価公示(市町村別平均価格地図(住宅地))



令和5年度地価公示(市町村別平均価格地図(住宅地))

【令和5年度の地価の状況】

県内の住宅地については、継続地点中、上昇地点の占める割合が80.2%(前年59.7%)になるとともに、下落地点では下落率が前年より概ね縮小したことから、県全体の平均変動率は、2.1%(前年0.8%)と上昇率が拡大した。

住宅地の全体的な動きは、次のとおりである。

- ・横浜市、川崎市及び相模原市では、東京都心に近い各区を中心に上昇傾向が強く、3市の市平均の上昇率が拡大した。
- ・県央部でも多くの地点で上昇率の拡大や下落率の縮小があり、全体として上昇傾向が見られた。
- ・これまで下落傾向であった県西部や三浦半島の地域では、需要増から上昇に転じた地点が多くあり、平均変動率が上昇に転じた市町も見られるとともに、引き続き下落している市町においても下落率は縮小した。

(参考)全国の人口移動の状況 ※「住民基本台帳人口移動報告」(総務省統計局)より抜粋

2023年12月31日現在の全国1719市町村についてみると、転入超過となっているのは511市町村で、全体の29.7%となっている。都道府県の中で、転入超過となっている市町村の割合が5割を超えるのは、東京都、神奈川県及び埼玉県の3都県となっている。

転入超過数は東京都特別区部が5万3899人と最も多く、次いで大阪府大阪市(1万2966人)、神奈川県横浜市(9731人)などとなっている。また、転入超過数の多い上位20市町村をみると、神奈川県が5市と最も多く、次いで千葉県が4市を占めている。

図5 都道府県別転入超過数(2022年、2023年)

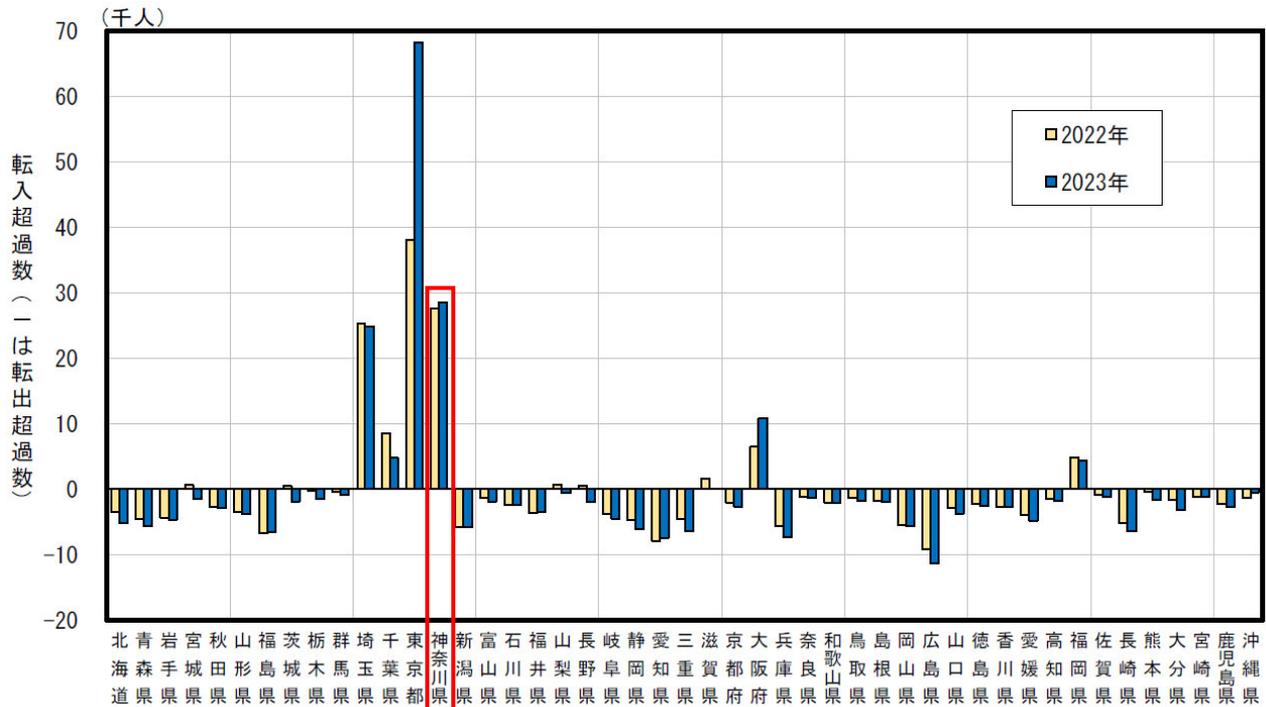


表18 転入超過数の多い上位20市町村(2023年)

順位	市町村	2023年	2022年	対前年増減数	順位	市町村	2023年	2022年	対前年増減数
1 (1)	東京都特別区部(東京都)	53,899	21,420	32,479	11 (12)	相模原市(神奈川県)	2,321	3,110	-789
2 (3)	大阪府大阪市(大阪府)	12,966	9,103	3,863	12 (10)	船橋市(千葉県)	2,318	3,172	-854
3 (5)	神奈川県横浜市(神奈川県)	9,731	8,426	1,305	13 (30)	川口市(埼玉県)	2,292	1,364	928
4 (4)	札幌市(北海道)	8,933	8,913	20	14 (7)	つくば市(茨城県)	2,094	3,818	-1,724
5 (6)	福岡市(福岡県)	8,911	6,031	2,880	15 (15)	町田市(東京都)	2,023	2,784	-761
6 (2)	さいたま市(埼玉県)	7,631	9,282	-1,651	16 (27)	松戸市(千葉県)	1,888	1,545	343
7 (17)	川崎市(神奈川県)	5,475	2,209	3,266	17 (31)	明石市(兵庫県)	1,785	1,215	570
8 (8)	千葉市(千葉県)	5,088	3,519	1,569	18 (13)	仙台市(宮城県)	1,659	2,938	-1,279
9 (26)	茅ヶ崎市(神奈川県)	2,520	1,560	960	19 (11)	八王子市(東京都)	1,637	3,161	-1,524
10 (25)	平塚市(神奈川県)	2,499	1,567	932	20 (14)	流山市(千葉県)	1,627	2,786	-1,159

注1) ()内の数字は2022年の順位
 注2) 東京都特別区部は1市として扱う。